mundi

August 2019 No. 71
編集・発行：独立行政法人 国際協力機構
Japan International Cooperation Agency: JICA
制作協力：株式会社 木楽舎

『mundi』（ムンディ）はラテン語で“世界”。本誌は、開発途上国の現状や、現場で活躍する人々の姿を紹介するJICA広報誌です。

Contents

02 目次
プロローグ Vol. 10

04 特集 気候変動対策
地球の未来のために
08 大都市バンコクを冷やせ! タイ
12 サブサハラアフリカ、気候変動との闘い
14 地盤沈下を食い止める! インドネシア
15 未来を見据えた治水対策を フィリピン
16 産業部門のエネルギー消費を減らせ! バングラデシュ
18 偏西風が生む夢のエネルギー モンゴル
20 まだある! JICAの気候変動対策
インド、コスタリカ、大洋州、南アフリカ共和国
22 特別レポート ルー大柴さんのパラオ訪問記

24 JICA海外協力隊がゆく Vol. 9
ブラジル

26 世界につながる教室⑤ 特別編
世界についてもっと知ろう!

28 地球ギャラリー Vol. 131 ケニア共和国
写真・文●桜木奈央子 フォトグラファー
アフリカに咲くバラ

34 教えて! 外務省
知っておきたい国際協力⑪

36 JICAイベントカレンダー

38 読者の声、プレゼントほか

39 JICA PRESS

40 わたしが見つけたSDGs Vol. 11

モンゴルで自然エネルギーを生み出す「ツェツィー風力発電所」（18ページ参照）。

JICA ジャイカ
信頼で世界をつなぐ
Leading the world with trust

プロローグ Vol. 10

自然とともに、どう暮らすべきか

文●森 朗

ほぼ毎年グアテマラを訪れている写真家、西田擁平さんとお会いする機会を得た。グアテマラは中米に位置し、夏になるとハリケーンの影響を受けやすい土地だが、ここ数年、そのハリケーンによる被害が大きくなっているそうだ。地球温暖化の影響でハリケーンが発達しやすくなり、年々風雨が強くなっているのかと思ったが、西田さんの見立ては違った。道路が影響している可能性があると指摘する。

グアテマラという国名は、「森林の大地」を意味する〝グアテマヤン〟という言葉から来ているという説がある。それほど、国土は豊かな森林に覆われている。森林は、山の斜面にびっしりと根のネットを張り、落ち葉が作るスポンジのような腐葉土は雨水を吸収し、幹や枝は風を和らげ、葉は一時的に雨滴を受け止めて土壌への急激な浸水を抑制する。この森林の保水力は、土砂災害や河川水害を緩和する作用があると考えられている。

そこに、近年道路ができた。山中に舗装道路が通れば、もちろん利便性が向上し、物流がスムーズになり、経済発展が期待できる。しかし一方で、道路は森林を分断し、保水力の連続性が途切れてしまう。面積にすればわずかでも、災害を緩和する力は大きく損なわれるというのが西田さんの考えだ。

住民の住宅についても、最近は風雨に強い石造り、コンクリート造りのものが増えてきたという。これらの住宅は、たしかに自然災害に対して堅固ではあるが、万一、耐えきれず崩壊することになれば、その瓦礫は住民の生命を脅かすことにもなり、実際に被害が生じている例もあるという。

思えば、日本で最も台風の影響を受ける場所といえば沖縄だ。中でも、台湾に近い八重山諸島には、沖縄本島よりも強い勢力で台風が襲来する。イリオモテヤマネコで有名な西表島は、その八重山諸島にある、沖縄県で2番目に大きい島だ。にもかかわらず、島を周回する道路がない。また、すべての集落が道路でつながっているわけではなく、途中から船に乗らなければならない集落もある。不便だ。過疎が進み廃村に追い込まれた村もある。しかし、豊かな森林が道路で分断されることがなく、島固有の生物種などの自然がかなり守られてきた。もし周回道路が、ましてや島を縦断するような道路ができていたら、島の自然環境はかなり変わってしまっていたことだろう。

西表島に台風が襲来すると、船を所有している多くの住民は、船を川の支流のマングローブに隠す。川を遡（さかのぼ）れば高波も入ってこないし、鬱蒼（うっそう）と生い茂ったマングローブの中では風も避けられる。人工の防災設備よりも、長年にわたって過酷な自然に晒（さらす）されるままにできあがったマングローブの方が、島の災害の経験値が結果的に蓄積されていると考えれば、へたなインフラよりも頼りになるとも言える。

数々の施策にもかかわらず、地球温暖化は進行している。今や温暖化防止に加えて、すでに影響が出始めた気候変動に、どう適応するかが喫緊の課題となっている。災害の性質や規模は、立地条件や気候条件によって大きく異なる。これまでに培われたインフラや技術を否定するわけではないが、それをそのままの形で別の土地に導入することがはたして正解なのか――場合によってはメリットよりも大きなデメリットを持ち込むことになるかもしれない。

日本は災害大国だ。季節の変化は大きく、国内の地形や気候も多様で、だからこそ、さまざまな防災のノウハウを持っている。私たちはこれまでに培った知見や技術を駆使すれば、さまざまな地域にマッチした国際協力や貢献ができるはずだ。日本が果たす役割はこれからもさらに重要になるだろう。

イラスト●中村知史

森 朗（もり・あきら）
ウェザーマップ 代表取締役社長。1959年、東京都生まれ。大学卒業後、日鉄建材工業（現・日鉄住金建材）に入社。趣味のウインドサーフィンや海好きが高じて、1995年に気象予報士資格を取得しウェザーマップに入社。気象キャスターを経て、TBS「ひるおび!」などテレビ・ラジオ番組に多数出演。著書に『異常気象はなぜ増えたのか―ゼロからわかる天気のしくみ』（祥伝社新書）など。2017年7月より現職。